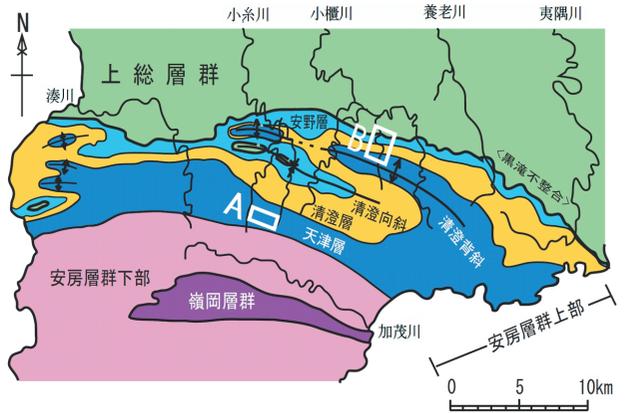


3年間(2007-2009)の地質の調査研修を振り返って(1)

＜徳橋 秀 一＞

房総半島中部の地質略図と ルートマップ作成A・Bコースの位置



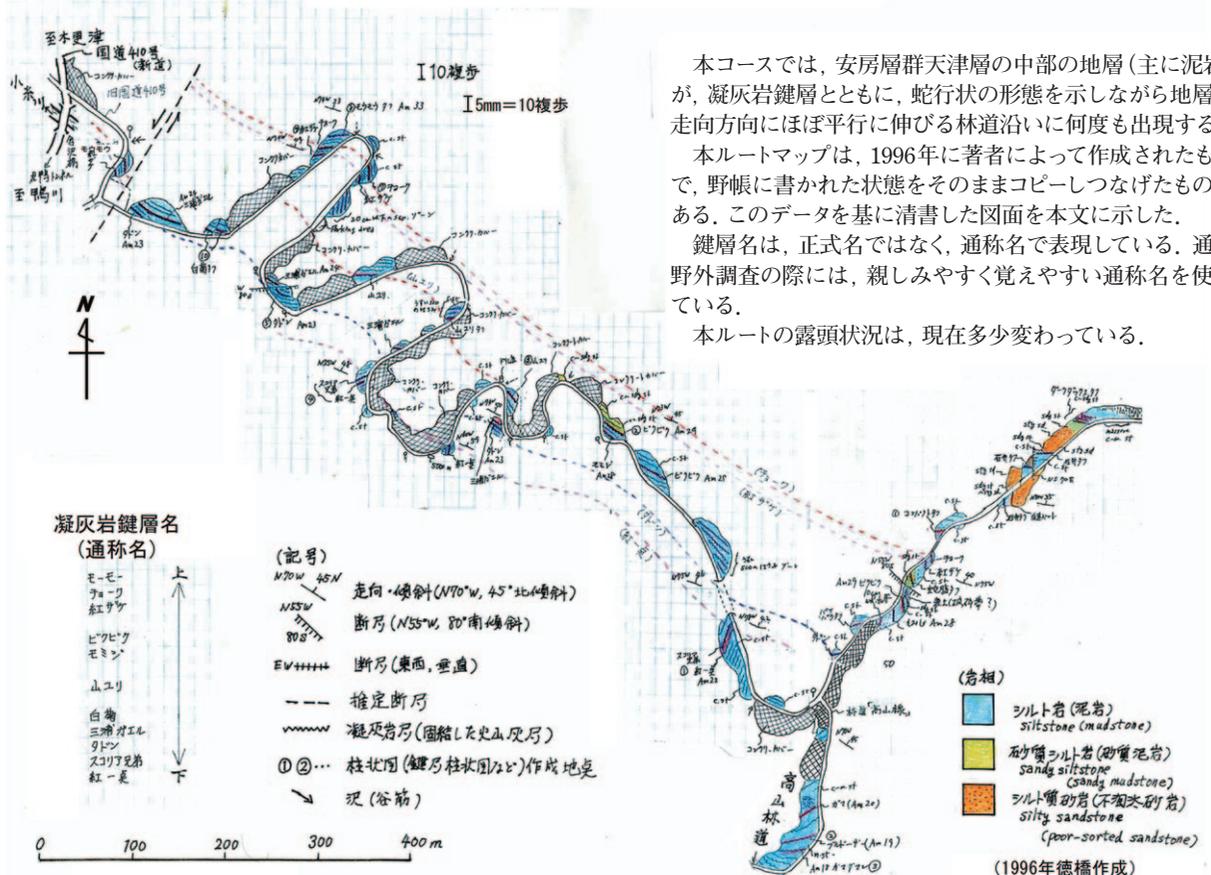
産総研地質調査総合センター認定の研修プログラム制度の一環として、地質関連会社の主に若手技術者を対象にした4泊5日(月～金)の「地質の調査研修」が、地学情報サービス(株)が主催(管理・運営)し、地質調査総合センターの現役やOBの研究者を講師として、主として房総半島中部に分布する安房層群上部の安野層・清澄層・天津層を対象に、2007年より実施されている。

ここでは、本研修の内容を企画し毎年講師を務めてきた著者が、過去3年間の実施の様子を、主に写真を中心に紹介する。はじめに、ルートマップづくりの実習を行っている2つのコースの地質学的位置とルートマップの実際の例を示す。

本研修実施の経緯・内容・方針等に関する詳細は本文にまとめた。

Aコース：ルートマップ作成初級(入門)コース(林道コース)

ふちがさわおくごめ せいわ
＜林道湊ヶ沢奥米線：清和県民の森内＞



本コースでは、安房層群天津層の中部の地層(主に泥岩)が、凝灰岩鍵層とともに、蛇行状の形態を示しながら地層の走向方向にほぼ平行に伸びる林道沿いに何度も出現する。

本ルートマップは、1996年に著者によって作成されたもので、野帳に書かれた状態をそのままコピーしつなげたものである。このデータを基に清書した図面を本文に示した。

鍵層名は、正式名ではなく、通称名で表現している。通常野外調査の際には、親しみやすく覚えやすい通称名を使っている。

本ルートの露頭状況は、現在多少変わっている。